

海外生活 エッセー

シドニー事務所

アンザックデーにみるオーストラリアの国民性 ~LEST WE FORGET~

シドニー事務所 島田菜々子 (神戸市派遣)

オーストラリアは、国民の約 25 %が外国生まれ、残りの国内生まれのうち約 20 %は両親の一方が外国生まれという多民族国家です。多文化主義を掲げるこの国は異文化に対して非常に寛容であり多様性を尊重する一方で、自国の歴史や伝統をととても大切にしている国でもあります。今回は「アンザックデー」という最も大切にされている祝日の一つから垣間見えるオーストラリアの一面をお伝えいたします。

→ アンザックデーってなに？

4月25日のアンザックデーは、1915年、第一次世界大戦において、アンザック部隊（オーストラリア・ニュージーランドの連合軍）がオスマン帝国（現トルコ共和国）のガリポリ半島に上陸した日でした。大苦戦したガリポリの戦いで犠牲となった多くの兵士たちを弔う日として始まったアンザックデーは今年で制定から100年目となり、現在では全ての戦争犠牲者を追悼する日とされています。

→ 変化する街の様子

4月も半ばに入ると、アンザックデーに向けて少しずつシドニー市内の様子が変わります。のぼり看板やポスター、CMが目立つようになり、シドニー事務所前の広場にある「LEST WE FORGET（忘れないように）」と刻まれた記念碑には追悼のシンボルであるポピーなど多くの花が手向けられます。また、スーパーやカフェでよく見かけるようになるのが「アンザックビスケット」です。アンザックビスケットとは、第一次世界大戦において兵士たちが携帯したもので、卵を使用しないことで長期保存を可能にしていました。このビスケットは、「これを食べた兵士であれば、この世の物は何でも食べられる」と言われるほど硬かったそうです。また、オーツ麦

を主原料とすることで栄養価を高くする工夫がなされました。現在のものは当時から異なり柔らかく食べやすくなっています。



スーパーに売られるアンザッククッキー

食べることで先人の歴史を実体験として学ぶとともに追悼の意を表すことができるようです。

→ 追悼の一日

アンザックデー当日は、全国各地で大規模な追悼式典が開催されます。シドニーでもガリポリ初上陸時刻の朝4時15分から Dawn Service が行われます。1927年から続くこの式典には未明にもかかわらず何千人もの人々が参列し黙祷を行います。自国兵のみでなく他国の犠牲者も追悼する様子は印象的でした。また朝9時から3時間以上、元兵士たちの行進が行われテレビ中継もされます。多くのスーパーや百貨店もこの時間帯は営業しません。そして夕方の Sunset Service をもって丸一日かけての追悼式典が終了します。

アンザックデーは、過去の歴史、戦傷者、平和への感謝、そして戦時に兵士が見せた Mateship（仲間の精神）を忘れないため（LEST WE FORGET）に、オーストラリア国民にとって重要な一日であることを体感しました。日本では、祝日を何気ない休日として過ごしてしまいがちですが、改めてその由来や意味に思いを馳せてみるのも良いのかもしれない。